

ことわざ・慣用句シリーズ

ここでは毎月、覚えておきたいことわざと慣用句を取り上げます。みなさんはどのくらい知っていますか？

慣用句

『角(かど)が立つ』

意味:ものごとがとげとげしくなること。

ひとこと:“丸い卵も切りようで四角、物も言いようで角が立つ”ということわざがある。

使い方:友人に貸した本がボロボロになっていたが、言うと角が立つから言わないことにした。

『かぶとをぬぐ』

意味:とてもかなわないこと。

ひとこと:昔、戦場で降参する時、かぶとをぬいだことからきた言葉。

使い方:兄の将棋のうまさにはかぶとをぬぐ。

ことわざ

『かべに耳あり』

意味:秘密や内緒ごとはもれやすいので、気をつけないさいという意味。

ひとこと:“かべに耳あり障子(しょうじ)に目あり”とも言う。

使い方『かべに耳あり』だから人の悪口を言うのはやめよう。

『亀の甲(こう)より年の功(こう)』

意味:長く生きる亀の甲よりも、長く生きている人の経験は尊いものである。

ひとこと:亀の甲(こう)と年の功(甲)は語呂合わせ。

使い方:亀の甲より年の功と言うじゃないか、年寄りの言うことは聞くものだ。